

# 制限時間内の発表力向上のためのエクササイズ

## —大学生対象の構成的グループ・エンカウターの実践研究—

### 深見知南

#### 1. はじめに

世界的な金融危機に伴う景気悪化が生じ、その影響は企業による2010年度の採用活動にも及んだ。2009年3月29日の朝日新聞朝刊の記事には次のように書かれている。「10年春の新卒採用計画について、朝日新聞社が主要100社を対象に実施した調査で、09年実績よりも採用を減らす予定の企業が44社にのぼることが分かった。『減らす』が『増やす』を上回ったのは7年ぶり。世界的な金融危機に伴う景気悪化と業績不振が直撃した形で、ここ数年続いた学生の『売り手市場』から一変し、厳しい就職戦線になりそうだ」。

このような時代において、就職戦線を勝ち抜く求職者はどのような人物だろうか。企業が求める人物像において、以下のような例がある。「コミュニケーション能力に優れた人」(日本メナード化粧品株式会社)、「コミュニケーション力を持った人材」(大日本印刷株式会社)、「コミュニケーションスキルに優れた人財」(エヌ・ティ・ティ・データ・セキュリティ株式会社)。以上のように業界、職種を問わず、求める人材において「コミュニケーション能力」を重視する企業は多い。

しかし、大学という自由な環境の中では、自分の気の合う人とだけ付き合うことも可能であり、その中でうまく対人関係が築けたとしても、それはコミュニケーション能力が高いとは言いがたい。ビジネス面で必要なコミュニケーション能力とは何かを考えた時、具体的に一つ言えることは「制限された時間内に自分の伝えたいことを相手に理解してもらえるように話せる能力」ではないかと考える。例えばミーティング、クライアントとの商談、企画のプレゼンテーション等、いずれの場面でも延々と話をするだけでなく、限られた時間内で話をまとめなければならない。実際に「数年かけて考えたことを、30分のプレゼンテーションで伝えられるかどうかビジネスコミュニケーションだ」といった社会人の声を聞いたこともある。

以上はビジネスの場面においての話を述べてきた。しかし、大学生の多くが企業への就職を志望する中、教員を志す学生もまた多い。教員という職業こそ、時間制限内における発表能力を問われる職業である。児童・生徒に最低限教えなければならない内容を要領よく教えるためには、毎時間の授業での時間の使い方が鍵となる。その上ただ教えるべきことを時間内に話してしまえば良いわけではなく、児童・生徒が理解できるように話さなければならない。したがって、教員を目指す大学生も「制限された時間内に自分の伝えたいことを相手に理解してもらえるように話せる能力」は必要である。

本稿では構成的グループ・エンカウターが、制限された時間内で行うものであることに着目し、就職活動を控える大学生や教員を目指す大学生のコミュニケーション能力の向上に有効

であると考え、4つのエクササイズを実施しその成果を検討していく。

## 2. 研究の目的と意義

構成的グループ・エンカウターの実践を通して、まずは参加者が楽しみながら「制限時間のある発表」に慣れていき、抵抗感を軽減させることを目的とする。ひいては参加者がビジネス場面、教育現場に必要なコミュニケーション能力を高められることを期待する。

## 3. 先行研究

### 3-1. 構成的グループ・エンカウターとは何か

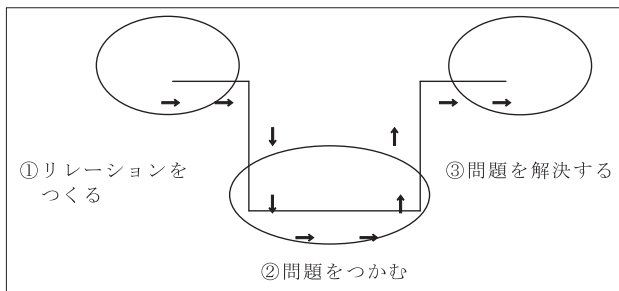
エンカウター (encounter) とは「出会い」という意味であり、心と心のふれあいである。一対一の「出会い」の場合もあるが、集団で実施するエンカウターもある。集団で実施するグループ・エンカウターには、非構成のエンカウター・グループと①課題 (エクササイズ) の内容、②グループの人数、③時間の枠を定めて行う構成的グループ・エンカウター (Structured Group Encounter 以下SGE) の二通りある。SGEの起源は、米国のエスリン研究所であるが、1970年代後半から國分康孝・國分久子らによって日本に紹介・実践され始めた。

SGEへの参加は強制ではないため、エクササイズを実施する前には参加者に、参加するかどうかの自己決定をさせなければならない。そのためにエクササイズを実施する前にそのねらい、大まかな内容、やり方、ルール、留意点を説明するインストラクション (instruction) が必要である。またエクササイズ (exercise) とは、ねらいを達成するために用意された課題や実習であり、体験したエクササイズをふりかえり、感じたことや気づいたこと等を分かち合うのがシェアリング (sharing) である。山本 (2001) は、「エクササイズとシェアリングは構成法の2本柱といえる」と述べている。ここで山本の言う「構成法」とはSGEのことを指している。またグループのエンカウターが促進されるように軌道修正したり、その場がうまく進まなくなった時に対応や言葉かけ等の応急措置をしたりすることを介入 (intervention) といい、SGEを有意義に進める上で必要なものである。以上をまとめるとSGEには、①インストラクション、②エクササイズ、③シェアリング、④介入の4つの柱が存在することとなる。

### 3-2. コーヒーカップ・モデルの構成的グループ・エンカウターに対する適用

國分 (1996) は、「知識だけではカウンセリングはできない。知識をどう使うか。その使い方の公式 (自分なりの方式) をモデルという」と述べている。その上でカウンセリングの流れを説明するモデルとして、コーヒーカップ・モデル (<図1>参照) を提唱している。藤川 (2004) は「このモデルでは、面接初期にはクライアントとのリレーションづくりをし、中期では問題の核心をつかみ、後期は適切な解決を試みて現実への復帰を図る時期である」とカウンセリングのプロセスをとらえるモデルであると説明している。

コーヒーカップ・モデルはSGEに適用することができる。藤川 (2004) は「参加者を日常から非日常 (SGEのグループ) へとおだやかに導入し、エクササイズを経験することで自己の問題をつかみ、行動変容へのヒントを得て、再び日常へとスムーズに統合していくというプロセスと考えるのである」と述べている。



＜図1＞コーヒークップ・モデル

本稿では以上に基づき、エクササイズを難易度の低いものから高いものへと、また現実のビジネス場面、教育現場に近いと思われるものへと、段階を踏み実施した。

#### 4. 研究方法・分析方法

##### 4-1. エクササイズとふりかえりシート

本稿で実施するSGEの大きな目標は、就職活動を控える大学生や教員を目指す大学生の「ビジネス場面におけるコミュニケーション能力の向上」や「教育者としてのコミュニケーション能力の向上」である。その中でも本稿で最も重要視したいキーワードは、「制限時間内での発表」である。以上に基づいてエクササイズを選定し、必要がある場合にはアレンジを加えながら実施する。

エクササイズ終了毎に、参加者にはふりかえりシート（別添資料①参照）に記入をしてもらう。ふりかえりシートには各設問に「よくあてはまる（5点）」～「全くあてはまらない（1点）」の5段階評価で答えるものと、自由記述欄を設ける。5段階評価で答える各設問の内容は以下の5項目である。括弧内は各設問を簡略化したものである。

- ①楽しんでエクササイズに参加できた（楽しかった）
- ②時間を意識して発表できた（時間意識）
- ③制限時間内に伝えたいことが伝えられた（時間制限）
- ④自分なりに工夫して発表したところがあった（工夫）
- ⑤時間制限のある発表について何か新しく気づくことがあった（発見）

以上の項目についての、各エクササイズでの参加者の評価をグレード・ポイント・アベレージ（Grade Point Average 以下GPA）式に算出する。その際、小数点第3位を四捨五入する。

・本稿におけるGPAの算出方式

$$\text{GPA} = \frac{(\text{五段階評価の各点数} \times \text{その点数を選んだ参加者の人数}) \text{の総数}}{\text{参加者総数}}$$

#### 4-2. 構成的グループ・エンカウンターの実践前後のアンケート調査

参加者には、SGE実施前とすべてのエクササイズが終了したSGE実施後において、「プレゼンテーションに関するアンケート」に答えてもらう。アンケートの回答結果から、SGE実施によって意識の変化が得られるかどうかの調査を行う。

アンケートもふりかえりシートと同様に、各設問において「よくあてはまる（5点）」～「全くあてはまらない（1点）」の5段階評価で答えるものと、自由記述欄を設ける。評価も同様にGPA式に算出して行う。

### 5. 構成的グループ・エンカウンターの実践

本稿ではSGEのエクササイズを4つ実施した。各エクササイズの実施内容等を以下に示す。全エクササイズにおいて各エクササイズ実施後に、ふりかえりシートにより自己評価を行ってもらった。各エクササイズでは、エクササイズの内容の説明とエクササイズの目的・ねらいの説明を行い、実施手順通りにすすめた。

#### 5-1. エクササイズ①「1分間スピーチタイム」

『エンカウンターで学級が変わる・ショートエクササイズ集』より、エクササイズ「1分間スピーチタイム」（安達、1999）にアレンジを加えて実施した。

本エクササイズでは「1分間でどれ程の量が話せるのか」という、時間感覚を養うことを一つの目的とした。そのためスピーチをさせる前に、まずはスピーチの時間と同じ1分間で、話す内容を考えさせた。必要に応じてメモをとるように、配付したエクササイズの説明プリントには、メモ欄を設けた。

実施日時	2009年5月12日（火）5・6時限 日本語学特殊講義（前期）
実施対象	日本語学特殊講義（前期） 受講生38名（男性7名、女性31名）
ねらい	①1分間という時間でどれだけ話せるのかを感覚的に理解する。 ②制限時間のある発表に慣れる。 ③短時間で他者に理解してもらえる話し方を考える。
所要時間	30分
実施手順	①ペアを作る（2人組） ②スピーチテーマの説明（テーマ：「今やりたいこと」） ③スピーチを考える（1分） ④一方が相手に1分間スピーチをする（1分） ⑤役割を交代して同様に行う（1分） ⑥ペアでシェアリング（2分） ⑦全体でシェアリング ⑧ふりかえりシートに記入

### 5-2. エクササイズ②「他己紹介」

『エンカウンターで学級が変わる・ショートエクササイズ集』Part2より、エクササイズ「他己紹介」(飯野、2001)にアレンジを加えて実施した。

このエクササイズは第3者に自分のペアを紹介するというものであるため、本来はいくつかの活動を行った後に実施するものである。本エクササイズではペアのことを知る方法として、始めに各自自己紹介シートを記入してもらい、それを基に会話をするという方法をとった。

実施日時	2009年6月9日(火) 5・6時限 日本語学特殊講義(前期)
実施対象	日本語学特殊講義(前期) 受講生28名(男性6名、女性22名)
ねらい	①制限時間内に伝えたいことを伝えられるようになる。 ②情報を整理し、取捨選択して話す。 ③内容を簡略化して話す。

所要時間 30分

実施手順	①ペアを作る(2人組) ②自己紹介シートの記入(5分) ③ペアで自己紹介シートを交換して、お互い内容について質問し合う。(4分) ④相手の紹介文を考える(1分) ⑤グループを作る(4人組) ⑥グループに自分のペアの紹介をする(1分×4=4分) ⑦4人組でシェアリング(4分) ⑧全体でシェアリング ⑨ふりかえりシートに記入
------	---

### 5-3. エクササイズ③「時間半分トーク」

『エンカウンターで学級が変わる・ショートエクササイズ集』Part2より、エクササイズ「時間半分トーク」(山見、2001)を実施した。

本エクササイズの「時間半分トーク」は、ペアのうち一方が2分間話をし、話を聞いた側が内容を1分間という半分の時間で要約して話すというものである。エクササイズ②「他己紹介」でも必要であった「情報を取捨選択する力」に加えて、本エクササイズでは「要約力」も必要となる。

実施日時	2009年6月16日(火) 5・6時限 日本語学特殊講義(前期)
実施対象	日本語学特殊講義(前期) 受講生30名(男性6名、女性24名)
ねらい	①制限時間内に伝えたいことを伝えられるようになる。 ②情報を整理し、取捨選択して話す。 ③内容を要約して話す。

所要時間 15分

実施手順	①ペアを作る(2人組) ②テーマの説明(テーマ:「最近嬉しかった出来事」) ③1人がテーマに沿った話をする(2分間)
------	--

(70)

- ④話を聞いた方が聞いたことを要約して1分間で話す（1分間）
- ⑤役割を交代して同様に行う。（2分+1分=3分間）
- ⑥ペアでシェアリング（2分）
- ⑦全体でシェアリング
- ⑨ふりかえりシートに記入

#### 5-4. エクササイズ④「いろいろPR」

ある企業が行った実際の採用選考にアレンジを加え、エクササイズ「いろいろPR」として実施した。

本エクササイズは様々な物や場所の絵が描かれたカードを、参加者に1人1枚ずつ配り、カードに描かれているものを他者にPRをするというものである。これを4人1組で実施した。

また「PRをする際、自分がPRをするものについて、聞く側は全く知識がないという前提でPRをする」という条件を加えた。

実施日時	2009年7月14日（火）5・6時限 日本語学特殊講義（前期）
実施対象	日本語学特殊講義（前期） 受講生34名（男性5名、女性29名）
ねらい	①制限時間内に伝えたいことを伝えられるようになる。 ②説明力を養う。 ③PR力を養う。
所要時間	30分
実施手順	①4人組になる。 ②1人1枚カードを引く。 ③カードに書かれたものを、他人が欲しがるように、または必要と感ずるよう PRを考える。（1分間） ④1人ずつ他の3人に、カードに書かれていたもののPRをする。（1分×4＝ 4分間） ※この時他の3人はカードに書かれている物について、知識が全くないという前 提。 ⑤誰の紹介したものが、欲しくなるような（必要と感ずるような）PRだったか を4人で話し合う。（3分間） ⑥グループでシェアリング（4分間） ⑦全体でシェアリング

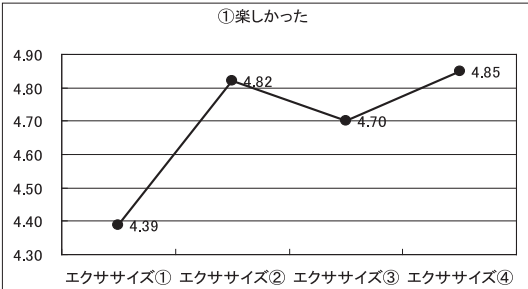
#### 6. 各評価項目の評価値の推移

本稿で行った全4回のエクササイズにおける、評価値の推移を評価項目毎に見ていく。各評価項目において、前回のエクササイズよりも評価値が上昇したのものには↑、下降したのものには↓を各表中の括弧内に付す。さらにその評価値の推移を折れ線グラフに示す。

## 6-1. 「①楽しかった」における評価値の推移

＜表1＞項目①「楽しかった」における評価値の推移

評価項目	エクササイズ①	エクササイズ②	エクササイズ③	エクササイズ④
①楽しかった	4.39 (－)	4.82 (↑)	4.70 (↓)	4.85 (↑)



＜図2＞項目①「楽しかった」における評価値の推移

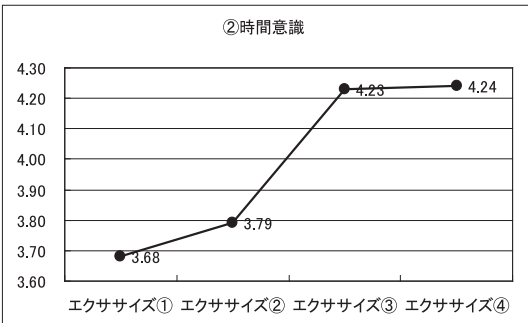
④の評価値は全エクササイズ中最も高い評価値を得ているため、エクササイズ②からエクササイズ③への難易度の移行が適切でなかった可能性も考えられる。

項目①「楽しかった」の評価値は、エクササイズ②で急激に0.43ポイント上昇し、以降毎回4.50ポイント以上の高い数値が得られた。しかしエクササイズ③の時には一度評価値が下降している。これについては、エクササイズの難易度が上がったためであると考えられる。エクササイズの難易度は徐々に上げていったつもりであった。最終的にエクササイズ

## 6-2. 「②時間意識」における評価値の推移

＜表2＞項目②「時間意識」における評価値の推移

評価項目	エクササイズ①	エクササイズ②	エクササイズ③	エクササイズ④
②時間意識	3.68 (－)	3.79 (↑)	4.23 (↑)	4.24 (↑)



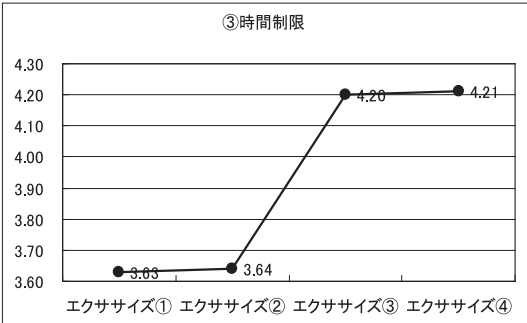
＜図3＞項目②「時間意識」における評価値の推移

項目②「時間意識」の評価値は、エクササイズ①、②においては、いずれも4.00ポイントを下回っているが、エクササイズ③ではエクササイズ②の評価値から0.44ポイントも上昇し、初めて4.00ポイントを上回った。さらにエクササイズ①からエクササイズ④まで一貫して評価値が上昇している。参加者が徐々に時間を意識し発表を行うようになった証拠と言える。

## 6-3. 「③時間制限」における評価値の推移

＜表3＞項目③「時間制限」における評価値の推移

評価項目	エクササイズ①	エクササイズ②	エクササイズ③	エクササイズ④
③時間制限	3.63 (－)	3.64 (↑)	4.20 (↑)	4.21 (↑)



＜図4＞項目③「時間制限」における評価値の推移

項目③「時間制限」の評価値は、エクササイズ①からエクササイズ②において、上昇がほとんどなく、項目②「時間意識」と同様に、エクササイズ③で急激な上昇が見られる。0.56ポイント上昇している。さらにエクササイズ③からエクササイズ④においてはまた上昇が緩やかになっている。おそらく2回のエクササイズで、制限のある発表について、こつをつかみ、その結果エクササイズ

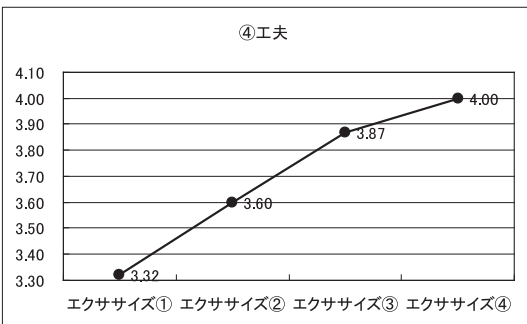
③の評価値の上昇に繋がったと推測できる。

特に注目したいのは、本稿で最も重要視していた「時間」に関する項目③「時間制限」の評価値が、毎回上昇しているという点である。このことから、SGEは時間制限内での発表能力の向上に有効だと言えるであろう。

## 6-4. 「④工夫」における評価値の推移

＜表4＞項目④「工夫」における評価値の推移

評価項目	エクササイズ①	エクササイズ②	エクササイズ③	エクササイズ④
④工夫	3.32 (－)	3.68 (↑)	3.87 (↑)	4.00 (↑)



＜図5＞項目④「工夫」における評価値の推移

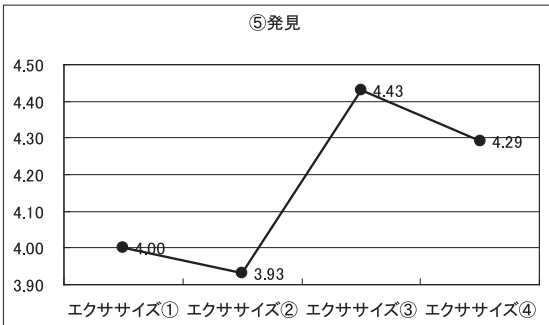
項目④「工夫」の評価値は、＜図5＞に示すように、エクササイズを実施する度に右肩あがりに移行している。エクササイズの回を増す毎に上昇が緩やかになってはいるが、着実に評価値が上昇していった項目であると言える。エクササイズに参加する度に、他の参加者から学んだり、自分で気付いたりして、「次はこうしてみよう」と実践していった証拠ではないかと思われる。



## 6-5. 「⑤発見」における評価値の推移

＜表5＞項目⑤「発見」における評価値の推移

評価項目	エクササイズ①	エクササイズ②	エクササイズ③	エクササイズ④
⑤発見	4.00 (―)	3.93 (↓)	4.43 (↑)	4.29 (↓)



＜図6＞項目⑤「発見」における評価値の推移

項目⑤「発見」の評価値の推移のグラフは、谷と山があり、起伏のあるグラフとなっている。

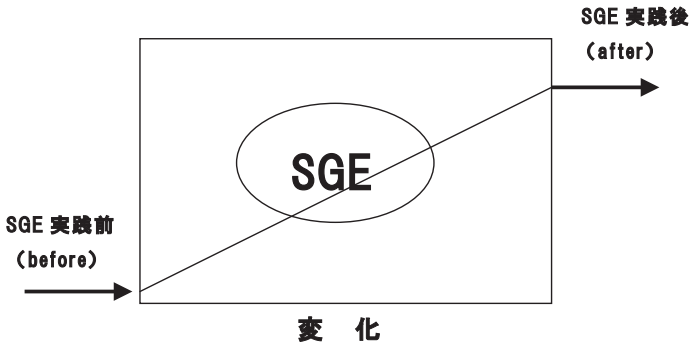
エクササイズ②からエクササイズ③への評価値の推移においては0.50ポイントの大きな上昇が見られるが、エクササイズ②とエクササイズ④において、2度の評価値の下降も見られる。エクササイズ①では、初めてSGEに参加した人にとって新鮮で、多くの発見が得

られたのではないかと考えられる。エクササイズ②ではその新鮮味も薄れ、新しい発見ができず評価値が下がり、エクササイズ③ではエクササイズの難易度が上がったことから、また新たな発見ができたのではないだろうか。さらにエクササイズ④ではまた新鮮味が薄れたのであろうと考察できる。

## 7. 構成的グループ・エンカウンターの実践前後のアンケート回答結果

## 7-1. 調査内容

2009年前期の日本語学特殊講義の受講生に、SGE実践前後においてアンケートに回答してもらった。本稿でのアンケート調査はSGEの実践前と実践後で、参加者の発表に対する意識の変化（＜図7＞参照）を調査するために行った。そのためSGEの実践前に行った「プレゼンテーションに関するアンケート①」（別添資料②参照）と、SGE実践後に行った「プレゼンテーションに関するアンケート②」（別添省略）の両方に回答している参加者の回答結果のみを有効回答とし、調査を行う。したがってどちらか一方のアンケートにしか回答していない参加者の回答結果は、調査から除外した。有効回答者数は30であった。



＜図7＞SGEの実践前後の変化

## 7-2. 構成的グループ・エンカウンターの実践前後のアンケート回答結果の比較

SGE実践前のアンケート回答結果とSGE実践後のアンケート回答結果を比較して分析した。なお項目①から項目⑥においてはSGEの実践前と実践後で参加者の意識が数値的にどのように変化するかを調査したかったため、設問内容を変えずに設定する予定であった。しかし項目⑥と⑦の設問の記述において、若干変えて実施した。

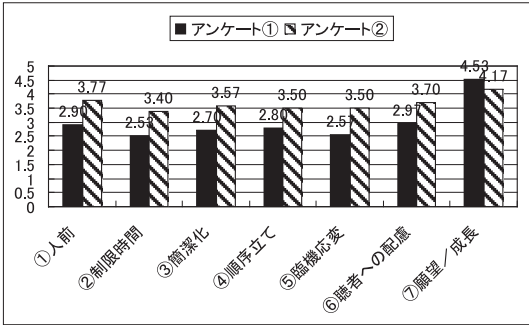
SGEの実践前に行った「プレゼンテーションに関するアンケート①」の各設問の内容は以下の7項目である。括弧内は各設問を簡略化したものである。また、自由記述欄も設けた。

- ①人前でも臆せずに発表できる（人前）
- ②制限時間があってもうまく発表できる（制限時間）
- ③内容を簡潔に説明することが得意だ（簡潔化）
- ④順序立てて話をするのが得意だ（順序立て）
- ⑤状況に応じて臨機応変に発表ができる（臨機応変）
- ⑥聞く人に理解しやすいように配慮して発表できる（聴者への配慮）
- ⑦時間制限のある発表がうまくできるようになりたいと思っている（願望）

SGEの実践後に行った「プレゼンテーションに関するアンケート②」の各設問の内容は、項目①から項目⑤においては前述した「プレゼンテーションに関するアンケート①」の設問内容と同じである。「プレゼンテーションに関するアンケート②」の項目⑥は「相手に理解しやすい話し方ができる（聴者への配慮）」、項目⑦は「以前より時間制限のある発表がうまくできるようになったと思う（成長）」を設定した。また、同様に自由記述欄も設けた。

アンケートの結果の比較を＜図8＞に示す。

SGEの実践後はすべての項目において、SGEの実践前より評価値が上昇している。最も評価値が上昇した項目は、項目⑤「臨機応変」で0.93ポイント、次いで項目①「人前」、項目②「制限時間」、項目③「簡潔化」の3項目で、0.87ポイント上昇した。残りの2項目においても0.7ポイント以上上昇した。



<図8>アンケート①と②の回答結果の比較

SGEの実践前は項目⑦をのぞく全項目において、3ポイントを下回っていたのに対し、SGEの実践後は全項目で3ポイントを上回った。

特に本稿で最も重要視している、制限時間のある発表についての設問である項目②は、数値こそ全項目中最も低い数値ではあるものの、評価値の上昇においては2番目に高い結果となった。アンケート①の項目⑦で4.53ポイントと高い評価値が出て

おり、本稿のSGE参加者は、「時間制限のある発表がうまくできるようになりたいと思っている」人が多かったと考えられる。そのような参加者にとっても、項目②の評価値の上昇の高さは有益な結果であると言える。

また項目⑦においてはアンケート①でも、アンケート②でも4.00ポイント以上の高い評価値を得ており、参加者の期待度や意欲の高さが、SGEの結果に反映するのだと考えられる。

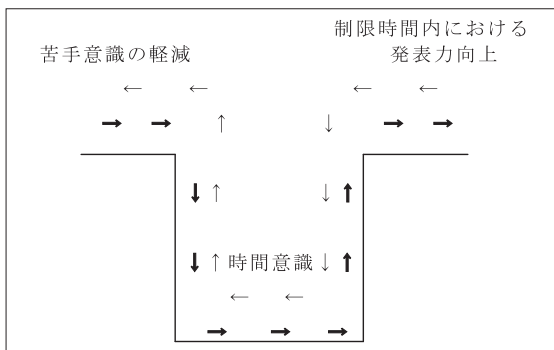
## 8. まとめと考察

### 8-1. 本稿におけるコーヒークップ・モデルの構成的グループ・エンカウンターへの適用

SGEが制限時間内での発表能力の向上に適しているということについて以下にまとめていく。

第1に、エクササイズが短時間であるため、時間の感覚を掴みやすい。第2に、グループで行うため、他者から学ぶことができる。以上2点は、各エクササイズのふりかえりシートで、実際に参加者も記述していることである。第3に、SGEは楽しむことで、制限時間のある発表に対する、苦手意識を軽減できる。SGE実践前のアンケートでは、全評価項目中で「制限時間があってもうまく発表できる」の項目の評価値が最も低かった。したがって、時間制限のある発表に対する、参加者の苦手意識は強かったと言える。

朝日(2004)は、「ホソネの交流を進めるには、まずは交流に対する抵抗を減らすために、楽しみながら気軽に参加できるエクササイズの実施も必要である」と述べている。これと同じように、時間制限内での発表能力の向上を進めるためには、時間制限のある発表に対する抵抗を減らすために、楽しんで発表することが必要であると考えられる。SGEに参加することによって、まずは時間制限のある発表に対する苦手意識が軽減し、徐々に時間を意識して発表するようになり、そして最終的に時間制限内における発表能力の向上へと移行すると考える。この点に関しては、先行研究でも用いたコーヒークップ・モデルを用いて<図9>に示す。



＜図9＞制限時間内での発表能力向上のためのSGEに関するコーヒーカップ・モデル

このモデルは、エクササイズを選定する際にも参考にできると考えられる。つまりSGEの実践の序盤では、参加者が制限時間のある発表に対する苦手意識を軽減できるよう、楽しみながらできる易しいエクササイズを選定する。本稿で言うエクササイズ①「1分間スピーチタイム」である。実践の中盤には参加者が時間を意識するように、少しエクササイズの難易度を上げる。例えばエクササイズの中で、制限時間が2通りあるものが良いと思われる。本稿では、エクササイズ②「他己紹介」やエクササイズ③「時間半分トーク」がそれに当る。実践の終盤には実際に参加者の制限時間内における発表力が向上するよう、より問題解決や現実の場面での目的に適したエクササイズを選定する。本稿では、実際に行われた就職試験をアレンジした、エクササイズ④「いろいろPR」を実施した。

またこのモデルの流れは一方方向であるとは限らない。参加者の変化はそれぞれ異なる。SGEに参加したことで、制限時間のある発表は苦手と思っていた参加者の、制限時間内における発表力が向上し、それから時間を意識するようになり、苦手意識を軽減できるという流れも存在し得るであろう。

## 8-2. 参加者の意欲の度合と構成的グループ・エンカウターの実践結果の関係

SGE実践前のアンケートにおいて、「時間制限のある発表がうまくできるようになりたいと思っている」の項目の評価値は非常に高かった。これはつまり、時間制限内における発表力の向上に対して、参加者の期待度や意欲が高かったことになる。本稿でのSGEの実践の結果は、参加者の意欲の高さが反映していると推測される。期待度や意欲の高さがSGEの結果に反映するという本稿での発見は、今後のSGEの実践に生かしていけると考える。SGE参加者が求めているものや期待しているものを調査し、エクササイズの選定を行った方が、より有用な結果が得られると考えられる。例えば本稿では、就職活動を控える大学生や、教員を目指す大学生向けにSGEを実践した。エクササイズの選定もその点に留意して行った。そのため、参加者の動機付けができ、本稿で得られたような結果が生じたのであろう。

## 9. 今後の課題

本稿ではSGEが制限された時間内で行うものであることに着目し、就職活動を控える大学生や教員を目指す大学生に役立つことを目的とした。しかし就職活動を行うのは大学生に限らない。今後は特に専門高等学校に通う高校生のための、進路別に適したSGEが実践できるよう、研究を進めていきたい。

### 【参考文献】

- 朝日朋子 (2004) 「適切なエクササイズとは」『構成的グループエンカウンター事典』図書文化
- 安達紀子 (1999) 「1分間スピーチタイム」『エンカウンターで学級が変わる・ショートエクササイズ集』図書文化
- 飯野哲朗 (2001) 「他己紹介」『エンカウンターで学級が変わる・ショートエクササイズ集』Part2 図書文化
- 國分康孝 (1981) 『エンカウンター 心とこころのふれあい』誠信書房
- 國分康孝 (1996) 『カウンセリングの原理』誠信書房
- 齋藤孝 (2009) 『1分で大切なことを伝える技術』PHP研究所
- 藤川章 (2004) 「コーヒークップ・モデルを生かした配列」『構成的グループエンカウンター事典』図書文化
- 本間正人・浮島由美子 (2008) 『できる人の要約力』中経出版
- 山見智子 (2001) 「時間半分トーク」『エンカウンターで学級が変わる ショートエクササイズ集 Part2』図書文化
- 山本銀次 (2001) 『エンカウンターによる“心の教育” ふれあいのエクササイズを創る』東海大学出版会
- ※以下参考Webサイト・PDFファイル
- <http://www.menard.co.jp/company/recruit/fresh2010/person/index.html> 日本メナード化粧品株式会社 新卒採用情報2010 求める人物像 (2009年4月29日現在)
- <http://saiyo.dnp.co.jp/10/recruit/message.html> 大日本印刷株式会社 2010年度採用について 求める人物像 (2009年4月29日現在)
- <http://www.nttdata-sec.co.jp/recruit/fresh.html> エヌ・ティ・ティ・データ・セキュリティ株式会社 採用情報 新卒採用 (2009年4月29日現在)
- <http://co-education.com/index.html> 就職支援サイト コーデューケーション (2009年4月29日現在)
- <http://www.sut.ac.jp/news/2005/pdf/0420.pdf#search='グレード%20ポイント%20アベレージ'> 平成10年10月26日の大学審議会答申からの抜粋 (2009年5月4日現在)
- (ふかみ・ちなみ)

別添資料①

## ふりかえりシート

2009年( )月( )日  
( )学部( )学科( )コース( )年  
【 男 ・ 女 】 国籍( ) 氏名( )

① 楽しんでエクササイズに参加できた

よくあてはまる

全くあて  
はまらない



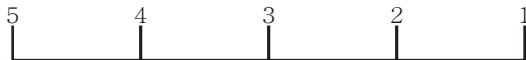
②時間を意識して発表できた



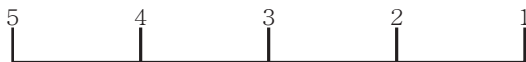
③制限時間内に伝えたいことが伝えられた



④自分なりに工夫して発表したところがあった



⑤時間制限のある発表について何か新しく気づくことがあった



⑥感じたことや気がついたことを書いてみましょう

ご協力ありがとうございました

別添資料②

## プレゼンテーションに関するアンケート①

2009年( )月( )日

( )学部( )学科( )コース( )年

【 男 ・ 女 】 国籍( ) 氏名( )

① 人前でも臆せずに発表できる

よくあてはまる

全くあてはまらない



② 制限時間があってもうまく発表できる



③ 内容を簡潔化して説明することが得意だ



④ 順序立てて話をするのが得意だ



⑤ 状況に応じて臨機応変に発表ができる



⑥ 聞く人に理解しやすいように配慮して発表できる



⑦ 時間制限のある発表がうまくできるようになりたいと思っている



プレゼンテーションに関して感じること、ご意見などを自由にお書き下さい。

ご協力ありがとうございました